2026年12月期第３四半期
決算説明資料

株式会社サイバーセキュリティクラウド

2026年11月13日

東証グロース市場：4493

当社開発環境における情報漏えいのおそれについて

お客様ならびに関係者の皆様に、
ご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、深くお詫び申し上げます

本件の概要	当社がソフトウェア開発に利用するGitHub上の当社管理領域で不審なアクセスを確認し、情報漏えいのおそれがあることが判明いたしました
サービスへの影響	現時点で、本件による当社サービスへの不正アクセスや二次被害、セキュリティ機能への影響は確認されておらず、各サービスは通常どおり提供しております
当社の対応状況	本件の判明後、被害拡大の防止を最優先に必要な措置を講じたうえで、原因と影響範囲の調査、および再発防止に取り組んでおります
今期業績への影響	2026年11月13日公表の当期業績予想の修正には、本件による影響を織り込んでおります。当期業績に重要な影響が生じると見込まれる場合には、速やかにお知らせいたします

※詳細は、2026年11月12日公表の「当社開発環境における情報漏えいのおそれに関するお知らせとお詫び（第一報）」をご参照ください

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

目次

１．2026年12月期 通期業績予想の修正 ―― 4

２．2026年12月期 第３四半期 決算概要 ―― 7

３．2026年12月期 第３四半期 トピックス ―― 16

４．成長戦略（参考資料） ―― 21

５．会社概要 ―― 30

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

1

2026年12月期 通期業績予想の修正

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

2026年12月期 通期業績予想の修正

・最新の業績動向を踏まえ、通期業績予想を下方修正。期末の配当予想は据え置き
・情報漏えいのおそれに関する業績影響については、現時点で見積もり可能な範囲で修正予想に反映済み

（百万円）	（連結）2025年12月期 通期	（連結）2026年12月期 当初予想	（連結）2026年12月期 修正予想	当初予想からの差異		前年同期比
				増減額	増減率	
売上高	5,084	6,000	5,700	-300	-5.0%	+12.1%
営業利益	1,102	1,200	1,102	-97	-8.1%	0.0%
営業利益率	21.6%	20.0%	19.3%	-0.7pt	—	—
経常利益	1,092	1,200	1,102	-97	-8.1%	+1.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	821	865	780	-85	-9.8%	-5.1%

■ 売上高
新中期経営計画の達成に向け、期初に組織体制の大幅変更を実施。新体制移行の遅れから一部計画の遅延が発生

■ 利益
売上高の下振れに伴う利益減少に加え、本社オフィスの増床および情報漏えい対応などの計画外費用が発生

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

業績予想修正の要因と下期の改善状況

・営業・開発組織の大幅な体制変更が、上期の営業活動の遅延に影響
・2026年11月12日公表の情報漏えいのおそれに係る対応費用等、判明している影響を反映

体制変更

2026年1月、新中期経営計画の達成に向けて営業・開発組織体制の大幅な変更

クロスセルの強化と顧客ニーズに基づくプロダクトマネジメントを推進するため、プロダクトごとに分かれていた組織を統合

上期に顕在化した課題	下期の対応と現在の改善状況
新体制移行に伴う営業活動の遅延	**新体制の役割分担・KPIを再整備** プロダクト横断での顧客提案を強化し、営業活動を立て直し
価格改定計画の変更	**顧客の解約リスクを考慮し、改定対象・時期を見直し** 改定による解約影響は限定的で、主な増収効果は4Q以降に寄与する見込み

＋

情報漏えいのおそれ

当社開発環境における情報漏えいのおそれ（11月12日公表）に係る業績影響

※フォレンジック費用などを反映。業績に与える重要な影響が生じる場合は、速やかにお知らせします

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

2

2026年12月期 第３四半期 決算概要

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

決算サマリー

ARR（年間経常収益） P10

55.0億円

前年同期比：+14.9%

売上高（3Q累計） P11

41.9億円

前年同期比：+12.6%

営業利益（3Q累計） P9

8.9億円

前年同期比：+6.0%

3Qトピックス P16~20

- サイバー攻撃・情報漏洩の急増と政府による対策強化
- セキュリティ対策需要の高まりと当社事業機会の拡大
- 「Security for AI」領域へのサービス展開の進捗
- 主要プロダクトの価格改定と業績寄与の関係性

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

業績の概況

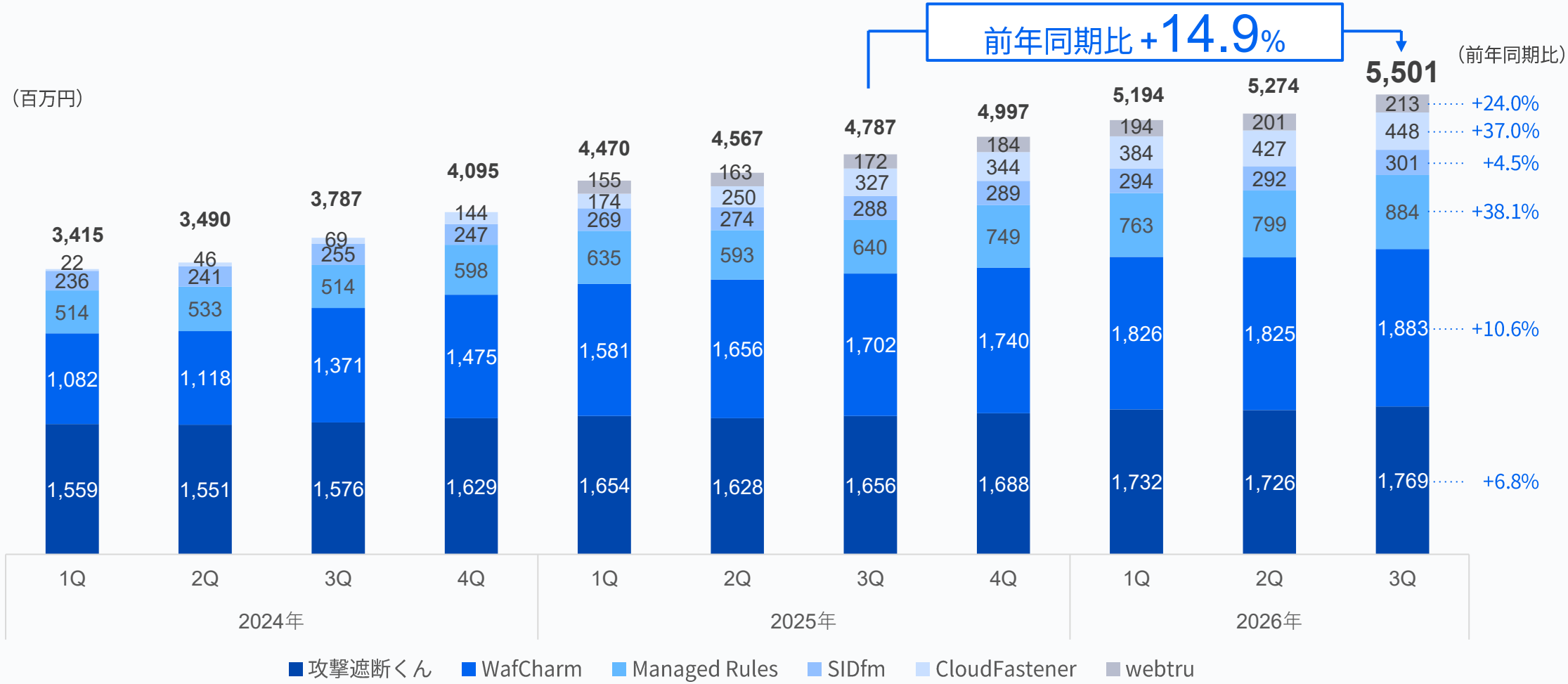
- 売上高41.9億円（前年同期比 +12.6%）、営業利益8.9億円（前年同期比 +6.0%）で着地

（百万円）	（連結）2025年12月期 3Q累計	（連結）2026年12月期 3Q累計	前年同期比	（連結）2026年12月期 修正予想	進捗率
売上高	3,728	4,199	+12.6%	5,700	73.7%
売上総利益	2,449	2,746	+12.1%	—	—
営業利益	844	894	+6.0%	1,102	81.2%
営業利益率	22.6%	21.3%	-1.3pt	19.3%	—
経常利益	804	901	+12.0%	1,102	81.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	567	611	+7.6%	780	78.3%

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

ARRの推移

- 全社ARRは前年同期比+14.9%で着地
- 3Qより Managed Rulesでは全顧客、SIDfmでは契約更新を迎えた顧客から順次、価格改定の適用を開始

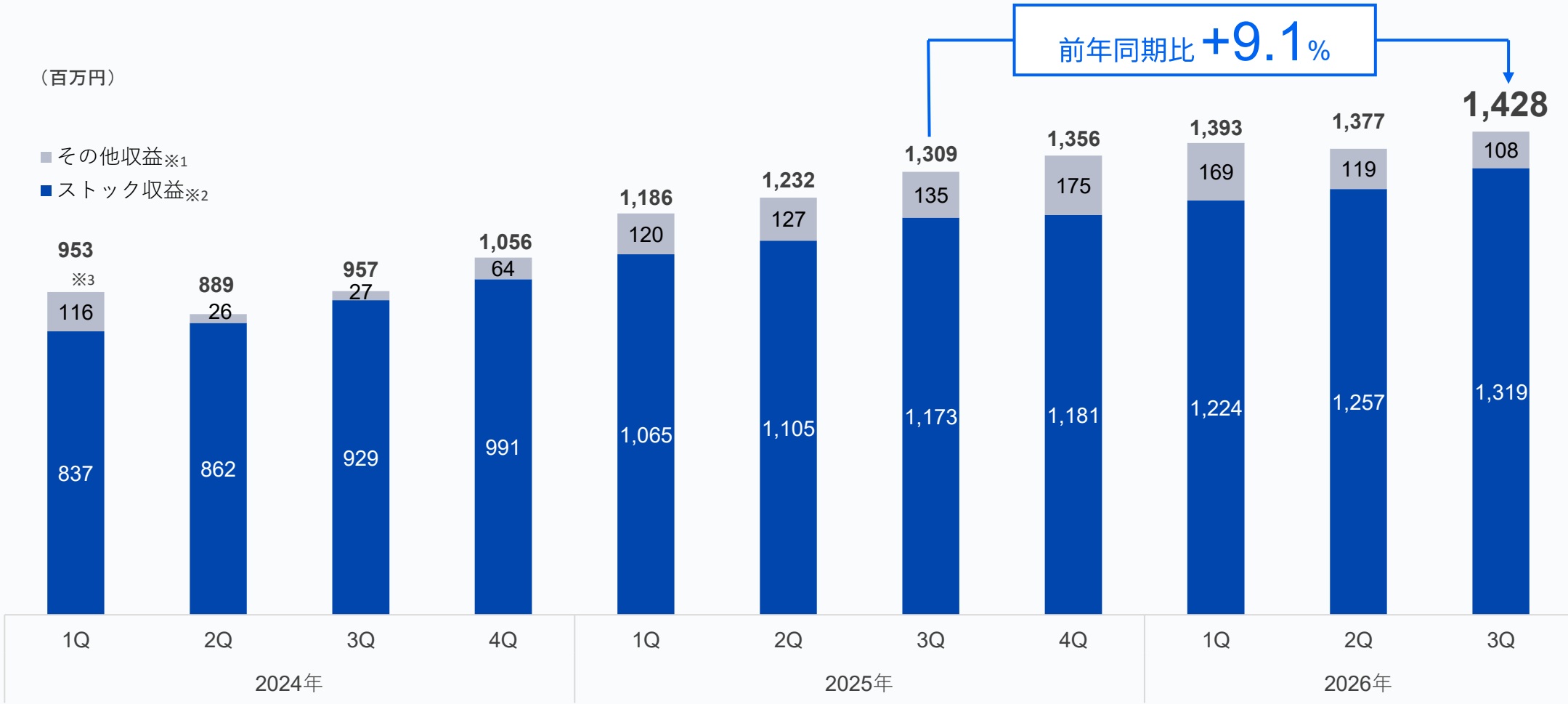


ARR：Annual Recurring Revenueのこと。対象月の月末時点におけるMRR（既存顧客から毎月継続的に得られる収益の合計）を12倍することで年額に換算して算出
攻撃遮断くん、WafCharmのユーザー数および解約率は、会社概要「当社の特徴②　安定的な収益構造」に記載

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

売上高の推移

- 価格改定の適用が始まり、各プロダクトのストック収益は堅調に伸長
- 3Q以降はWafCharmの価格改定が始まり、ストック収益の積み上げが一段と進む見通し

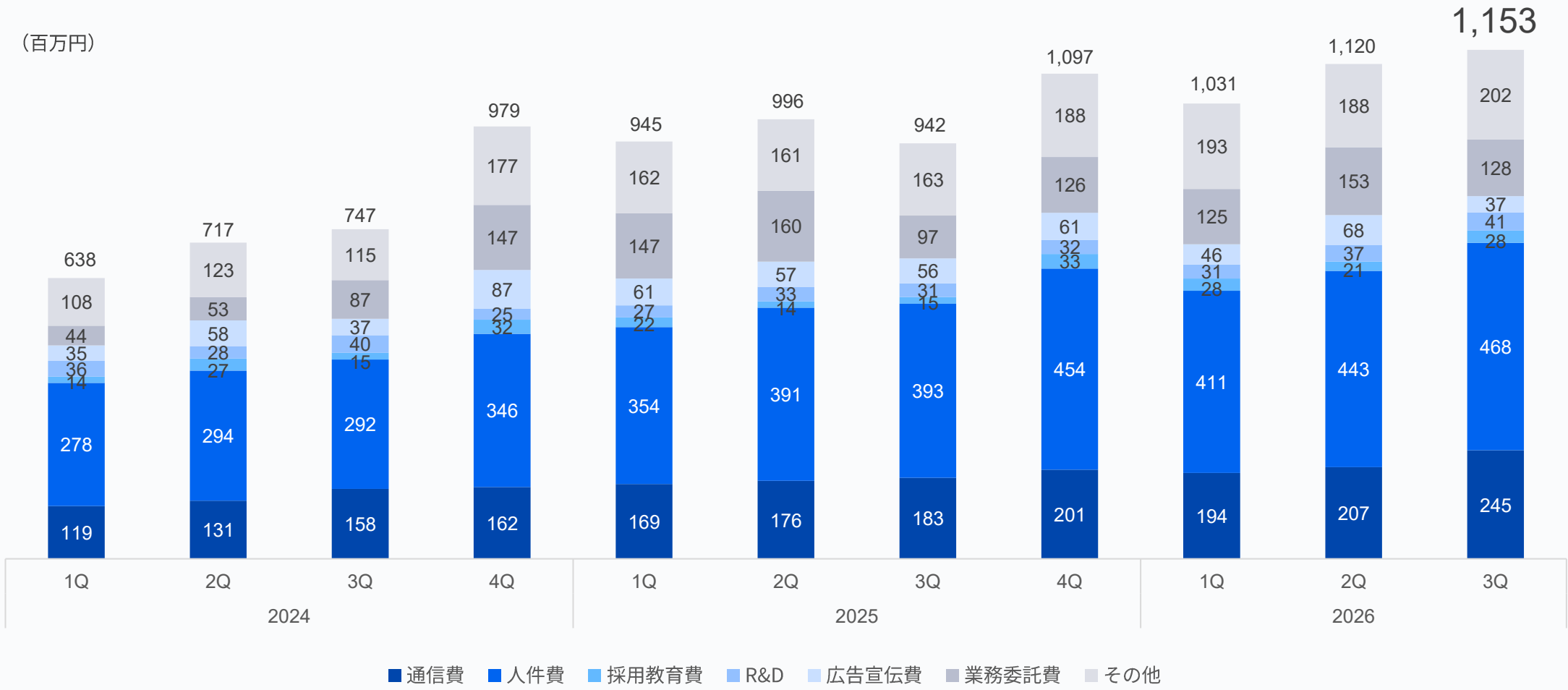


※1 初期導入費用、脆弱性診断や受託開発案件等のスポット契約を含む売上高の合計
※2 攻撃遮断くん、WafCharm、Managed Rules、SIDfm、CloudFastener、webtruのMRRの合計
※3 デジタル庁のガバメントクラウドに係る案件約70百万円を含む

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

営業費用（売上原価・販売費及び一般管理費）の推移

- 社内におけるAI利活用の拡大に加え、サーバー移行に伴う新旧環境の一時的な並行稼働により通信費が増加
- 積極的な採用に伴う人員増により人件費が増加。4Q以降は本社オフィスの増床に伴う費用増を見込む

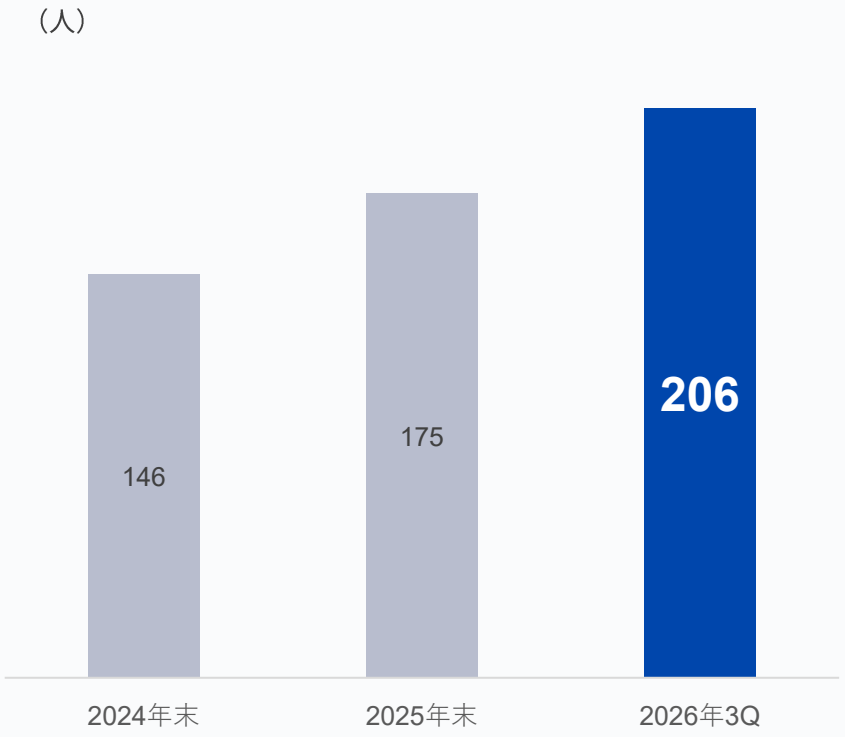


©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

従業員数の推移

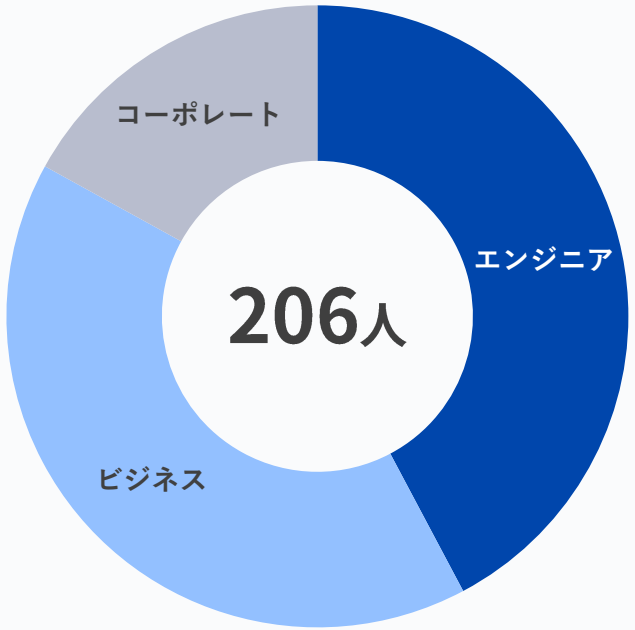
- 四半期ベースで過去最高の採用数を記録し、人員体制を着実に拡充
- 主にセールス・マーケティング・エンジニアの採用を強化し、販売・開発体制の強化を推進

従業員数の推移※



※従業員数は、派遣社員を含む。また、日本法人と米国法人の人員を合算した数値を記載
2024年よりジェネレーティブテクノロジー社、2025年よりDataSign社を連結子会社化

2026年3Q 人員構成



©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

（参考情報）連結損益計算書

（百万円）	2024年 1Q	2024年 2Q	2024年 3Q	2024年 4Q	2025年 1Q	2025年 2Q	2025年 3Q	2025年 4Q	2026年 1Q	2026年 2Q	2026年 3Q	前年同期比
売上高	953	889	957	1,056	1,186	1,232	1,309	1,356	1,393	1,377	1,428	+9.1%
売上原価	263	294	346	433	423	438	416	472	444	477	531	+27.5%
売上総利益	690	595	611	623	762	793	893	883	949	900	897	+0.5%
売上総利益率	72.4%	66.9%	63.9%	59.0%	64.3%	64.4%	68.2%	65.2%	68.1%	65.3%	62.8%	-5.4pt
販売費及び一般管理費	375	420	404	546	521	557	525	625	586	643	621	+18.3%
営業利益	315	174	207	76	240	235	367	258	362	256	275	-25.1%
営業利益率	33.1%	19.6%	21.7%	7.2%	20.3%	19.1%	28.1%	19.1%	26.0%	18.7%	19.3%	-8.8pt
経常利益	342	206	149	134	210	218	376	287	382	266	252	-32.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	235	137	98	103	162	148	256	254	261	185	163	-36.1%

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

（参考情報）連結貸借対照表及び連結キャッシュ・フロー計算書

（百万円）	2024年通期	2025年通期	2026年3Q
流動資産	2,212	4,680	4,305
固定資産	804	1,152	1,229
資産合計	3,016	5,833	5,534
流動負債	1,020	1,212	880
固定負債	290	198	19
負債合計	1,310	1,411	900
純資産	1,706	4,421	4,634
負債・純資産合計	3,016	5,833	5,534

（百万円）	2025年通期	2026年2Q
営業活動によるキャッシュフロー	1,004	260
投資活動によるキャッシュフロー	-426	-19
財務活動によるキャッシュフロー	1,707	-827
現金及び現金同等物の増減額	2,316	-561
現金及び現金同等物の期首残高	1,667	3,983
現金及び現金同等物の期末残高	3,983	3,422

※ 2026年12月期3Qはキャッシュ・フロー計算書を作成していないため、直近四半期のキャッシュ・フロー計算書を記載しております。

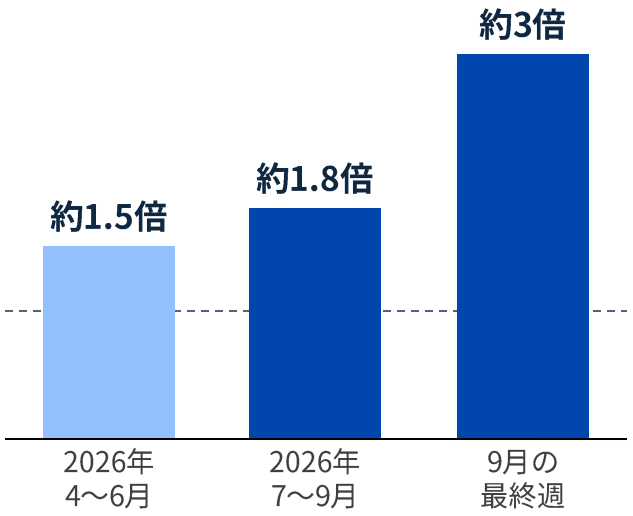
©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

3 2026年12月期 第３四半期 トピックス

サイバー攻撃・情報漏えいの急増と政府による対策強化

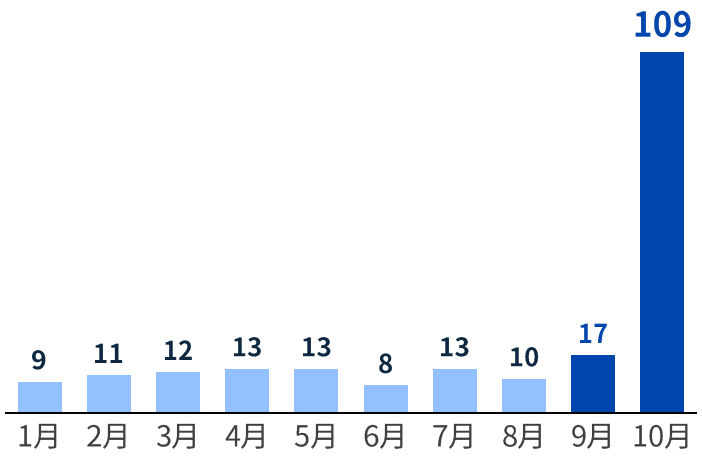
- 不正アクセスによる情報漏えい事故が相次ぎ、サイバー攻撃の脅威が深刻化
- 政府も法制度の整備や関係省庁の連携を進め、サイバーセキュリティ対策強化を加速

1 攻撃：当社WAFの攻撃検知数※1



7～9月は前年の約1.8倍、9月の最終週は約3倍

2 市場：上場企業の情報漏えい事故※2



10月は109件、1～10月で年間の過去最多を更新

3 政策：政府によるサイバー対策の強化

10月1日　政府
「能動的サイバー防御」関連法の一部施行

10月1日　国家サイバー統括室
重要インフラのサイバー対策に関する統一基準が施行

10月7日~9日　関係省庁
警察庁・金融庁・総務省などが連携し、企業への対策要請を強化

10月26日　首相
関係閣僚会議を開催し、緊急対策パッケージの策定を指示

制度整備が進展、相次ぐサイバー攻撃を受け緊急対策も強化

※1 当社 WAF が観測した件数（当社リリース 2026年8月7日・10月6日）
2 東京商工リサーチ「上場企業『個人情報漏えい』、過去最悪を更新」（2026年11月9日）掲載の「情報漏えい・紛失事故 2026年 発生件数推移」より。

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

セキュリティ対策需要の高まりと当社事業機会の拡大

- サイバー攻撃の増加や政府の対策強化を背景に、企業でのセキュリティ対策の重要性が一段と高まっている
- 当社への引き合いも増加しており、Webセキュリティ事業の成長機会が拡大

企業に求められる対策の変化

対象

一部の業種・企業に限られた対策から、
個人情報を扱うあらゆる企業に必要な対策へ

位置づけ

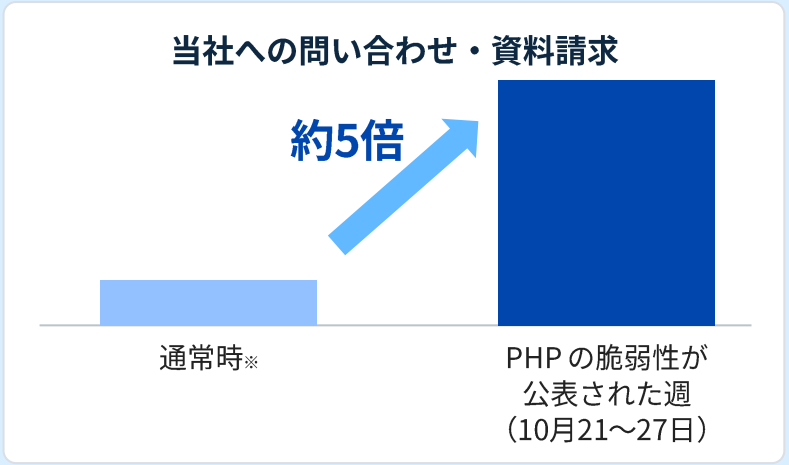
IT 部門の課題から、**経営課題へ**

期間

定期的な点検・事後対応を中心とした対策から、
平時から継続的に脅威に備える対策へ

Webセキュリティ対策の重要性が高まり

事業機会が拡大

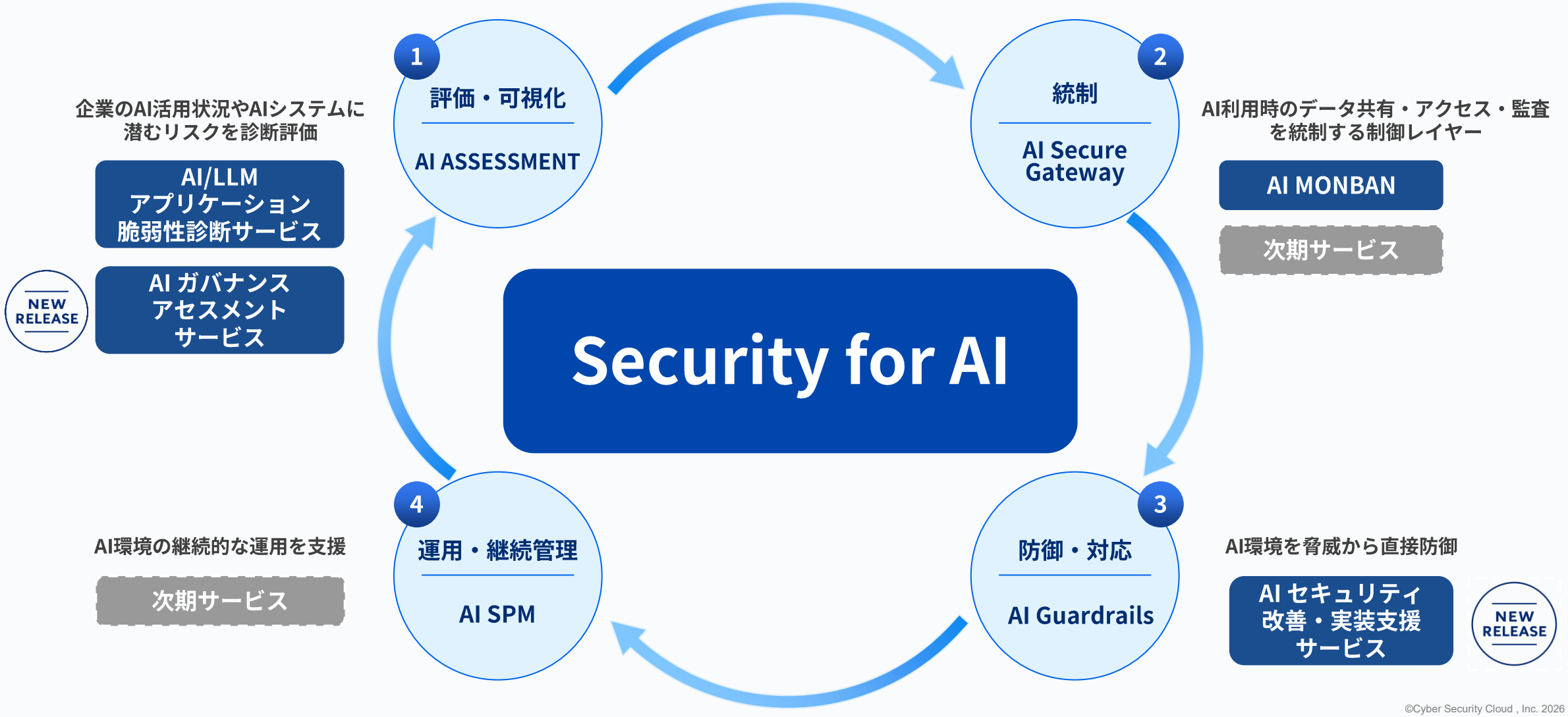


※ 通常時は2026年1～8月の実績を基準としています。

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

「Security for AI」領域へのサービス展開

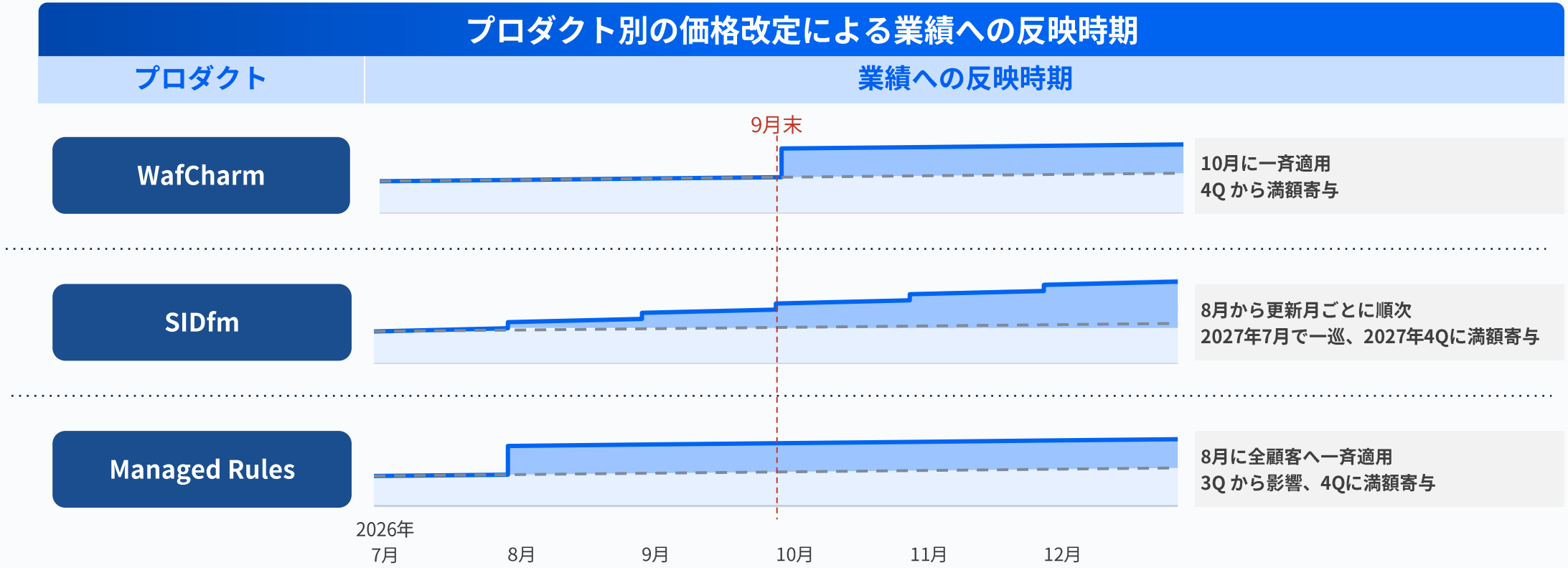
- 「Security for AI」のワンストップサービス提供に向け、サービスラインナップを拡充
- 2026年8月にAI ガバナンスアセスメント、2026年9月にAI セキュリティ改善・実装支援を開始



©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

主要プロダクトの価格改定と業績寄与の関係性

- WafCharm・ SIDfm・Managed Rulesの主要3プロダクトで価格改定を実施
- 価格改定効果は2026年8月以降、プロダクトごとに順次業績へ反映され、今後も段階的に拡大



※攻撃遮断くんは、価格改定は据え置き、中価格帯の新料金プランを提供開始（2026年6月~）

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

4 成長戦略（参考資料）

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

サイバーセキュリティ市場における当社の主戦場

従来の主戦場であったWAFを起点に、アプリケーション領域内で事業ドメインを拡張
サイバーセキュリティ市場の中でも成長率の高い領域で、さらなる成長を目指す



※ 各種市場調査レポートより、当社作成

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

2030年に向けた成長方針と実行戦略

プロダクト拡充と包括的ソリューション化の両輪で成長を加速させ、
アプリケーションセキュリティ分野におけるNo.1ポジションを確立する



売上高 200億円　営業利益 40億円

アプリケーションセキュリティのNo.1へ

プロダクト力の強化 ⇄ **ソリューション型価値提供への転換**

LTV最大化

1. プロダクトラインの拡充
2. プロダクト×運用による提供価値の深化
3. AIセキュリティへの集中投資
4. M&Aによる全体成長の加速

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

LTV最大化を軸とした事業成長モデル

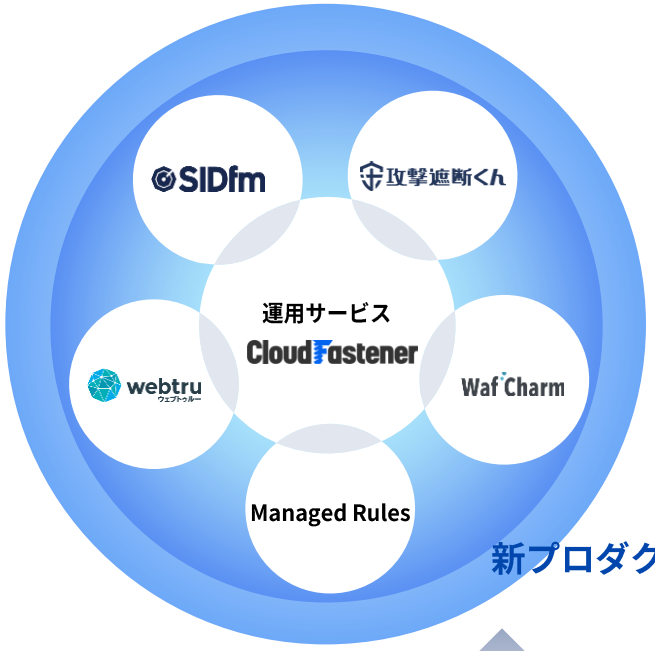
顧客接点の創出から提供価値の拡張、LTVの最大化までを統合的に推進する成長モデルを確立する

顧客接点の創出

- 脆弱性診断
- サイバー攻撃被害の対応
- コンサルティング

など

コア領域の最大化



クロスセル・アップセルの加速

新プロダクトの開発

付加価値の提供

- セキュア開発支援
- セキュリティ教育
- セキュリティ人材支援

など

高度化　自動化　新サービス開発

AI基盤

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

戦略① プロダクトラインの拡充

コア領域からバリューチェーン全域へ提供価値を拡張
さまざまな顧客のニーズに応えられるよう、幅広く領域を押さえる

コア領域

統治	特定	防御	検知	対応	復旧
経営レベルの意思決定・管理	情報資産の把握とリスク特定	リスクに基づき防御策を実装	脅威の迅速な検知	インシデントへの適切対応	業務影響の最小化・復旧

拡張方針

- コンサル領域の強化
- アセスメントの強化
- 既存プロダクトの機能拡張
- セキュリティ運用サービスの提供範囲を拡大
- 一気通貫して提供可能な新プロダクトの開発、M&A

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

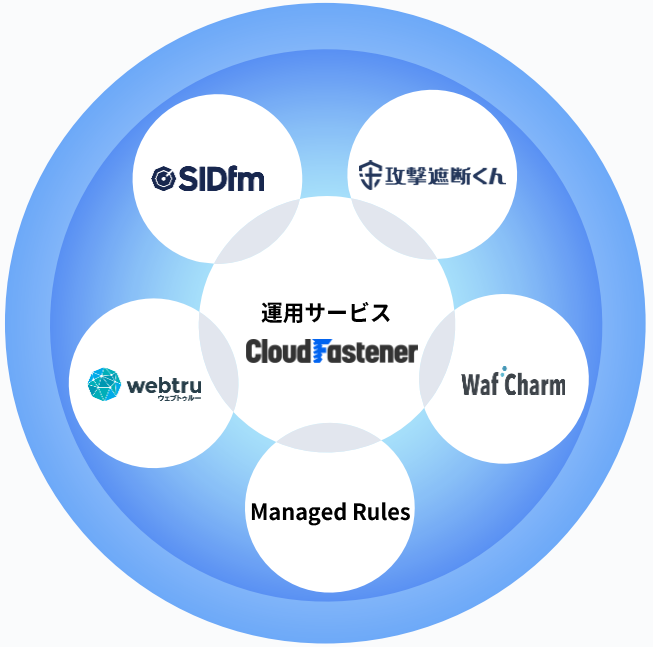
戦略② プロダクト×運用による提供価値の深化

プロダクトと運用の統合により高付加価値モデルへ移行し、
クロスセル・アップセルが生まれやすい商品構造に変化する

高単価顧客の最大化に向けた取り組み

ARR1,000万円+
48社 (2025年12月末)

→ **500社超を目指す**



具体的施策

- ブランド統合による認知・導線の一元化
- 複数プロダクト×運用を束ねた高付加価値モデルの確立
- 提供価値に見合ったプライシングモデルの設計

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

戦略③ AIセキュリティへの集中投資

- AIによるセキュリティ強化、AIを安全に使うためのサービス開発、全社的なAI活用の3つのテーマを推進
- AI時代における新たなセキュリティニーズを追い風に、AIによる価値創出を目指す

1 AI for Security

AIを既存プロダクトに組み込み、
防御精度と運用効率を向上

攻撃遮断くん
Waf Charm
AI分析・予測による
防御精度向上

CloudFastener
AIトリアージ・自動化で
運用を効率化

防御精度の向上 × 運用効率の最大化

2 Security for AI

AI活用の拡大に伴う新たなリスクに
対応する新セキュリティサービスを開発

AI Security Posture Management
AI利用状況の可視化・管理

AI Secure Gateway
AIエージェントの保護・制御

AI Guardrails
AI環境の防御レイヤー

AI活用の安全性確保 × リスク最小化

3 AI-Native Organization

全社でAIを活用し、生産性を向上

開発
AI-DLC（AI駆動開発ライフサイクル）へ
業務刷新

セキュリティ運用
コードベースや環境の脆弱性検知と自動対応、
脅威分析・調査、ナレッジ活用

コーポレート
業務自動化・ナレッジ共有・社内アシスタント

生産性向上 × イノベーション創出

AI Trust Board

AIの価値を最大化しながら信頼性を担保

AI戦略全体を支える意思決定・Trust基盤

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

戦略④ M&Aによる全体成長の加速

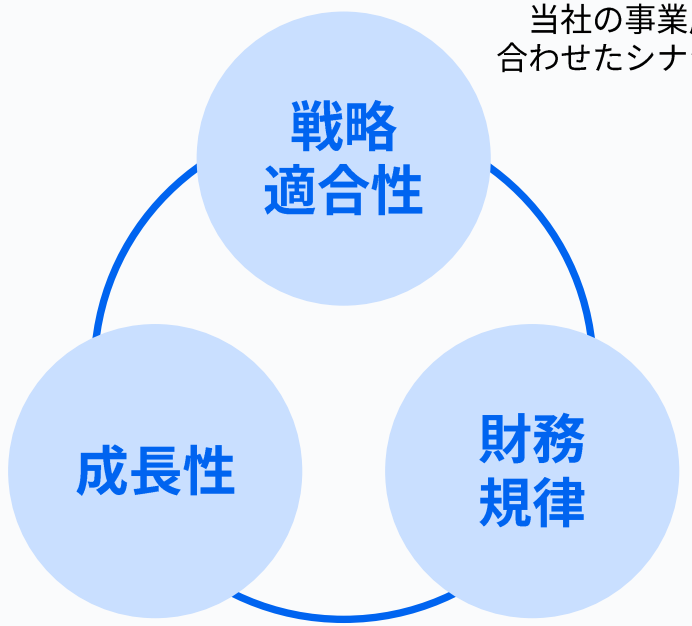
M&Aによる成長加速は、アプリケーションセキュリティNo.1及び売上高200億円の早期達成に向け必須
売上や顧客基盤の拡大に留まらず、提供価値と収益構造の強化を図る

M&A目的

狙い	事業価値の拡張レバー
コア領域の最大化	クロスセルを前提としたサービスを獲得し、顧客単価と収益性を同時に向上
顧客接点の創出	顧客基盤・販売チャネルを獲得し、新規顧客・新市場への展開を加速
付加価値の提供	高度な機能・専門性を獲得し、差別化と収益性を向上

実行方針

当社の事業成長モデルに
合わせたシナジー創出を狙う



2030年の売上高200億円に向け
M&A後も継続成長を見込む

原則、のれん負けをせず
利益貢献を見込むための
バリュエーション規律の徹底

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

戦略④ これまでのM&A後における事業成長状況

累計3件のM&Aを通じて事業の成長基盤を強化し、売上・利益・顧客獲得の面で着実な成果を創出

SIDfm

※ソフテック（2020年12月）

ARR 約2倍

(2020年末→2025年末)

脆弱性診断サービス

※ソフテック（2020年12月）

売上高 約2倍

(2020年通期→2025年通期)

GENERATIVE TECHNOLOGY

※ジェネレーティブテクノロジー（2024年10月）

売上高 1.8倍

(2023年通期→2025年通期)

webtru ウェブトゥルー

※DataSign（2025年3月）

ARR +18%

(2024年末→2025年末)

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

5 会社概要

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

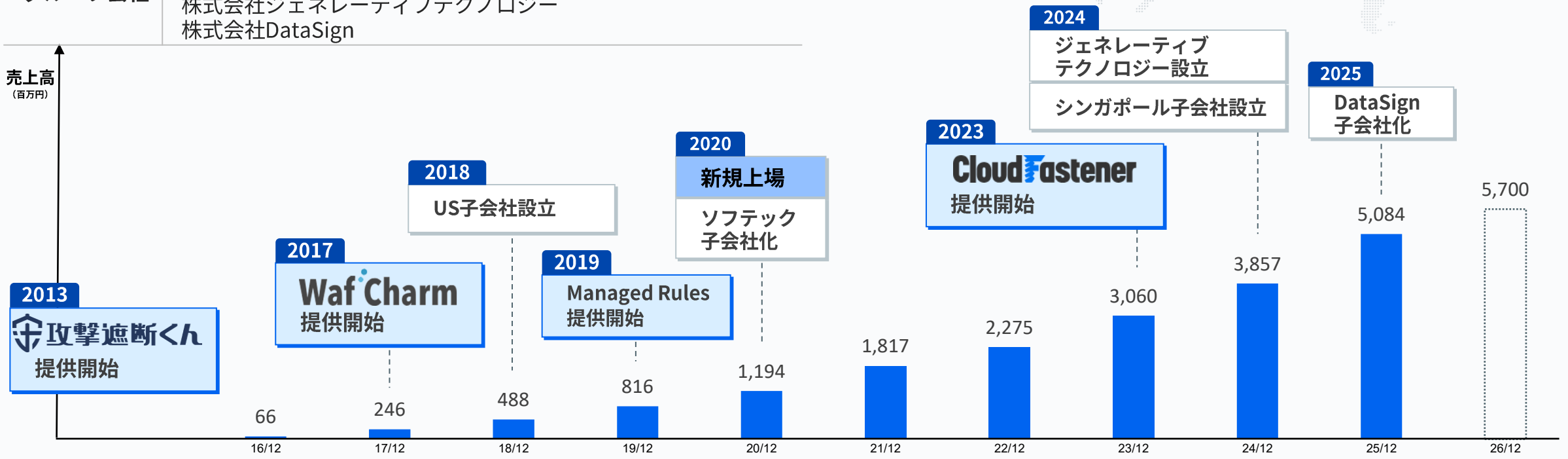
会社概要

社　名	株式会社サイバーセキュリティクラウド
設　立	2010年8月11日
代表者	代表取締役社長 兼 CEO　小池 敏弘 代表取締役CTO　渡辺 洋司
所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 JR東急目黒ビル13階
事業内容	サイバーセキュリティサービスの開発・提供
グループ会社	Cyber Security Cloud Inc.（USA） Cyber Security Cloud Pte. Ltd.（Singapore） 株式会社ジェネレーティブテクノロジー 株式会社DataSign

企業理念

世界中の人々が安心安全に使える

サイバー空間を創造する。



©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

経営陣

クラウド・セキュリティ技術やSaaS開発について豊富な経験と深い知見を有し、成長をけん引する経営陣

代表取締役



代表取締役社長 兼 CEO　小池 敏弘

- 1983年生。甲南大学法学部卒
- 2006年 リクルートHRマーケティング関西（現リクルート）入社
- 2016年 対話型AIソリューション開発の米AppSocially Inc.のCOOに就任
- 2018年 株式会社ALIVAL（現M&Aナビ）を創業
- 2021年 当社代表取締役社長 兼 CEOに就任



代表取締役 CTO　渡辺 洋司

- 1975年生。明治大学理工学部卒
- 大手IT企業でクラウドシステム、リアルタイム分散処理・異常検知の研究開発に従事
- 2016年 当社入社。CTOや取締役を歴任
- 2021年 代表取締役 CTOに就任

取締役

取締役 CFO　倉田 雅史

- 公認会計士。太陽有限責任監査法人を経て、2017年当社入社
- 2019年 取締役に就任

執行役員

執行役員 Head of Global Strategy　桐山 隼人

- アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社にてセキュリティ事業に従事
- グロービス経営大学院客員准教授（現任）
- 2024年 当社入社。Cyber Security Cloud Pte. Ltd. (シンガポール法人)のCEOに就任（現任）

社外取締役

社外取締役　栗原 博

- 富士ゼロックス株式会社　代表取締役社長を歴任
- 一般社団法人日本テレワーク協会会長（現任）

社外取締役　伊倉 吉宣

- 弁護士。AZX総合法律事務所、カイロス総合法律事務所を経て伊倉総合法律事務所代表（現任）

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

数字で見るCSCグループ①

売上高年平均成長率

33.6%

※2020年から2025年まで

ユーザー数

6,000+

※2025年12月末時点

海外ARR比率

10.6%

※2025年12月末時点

提供国数

100カ国+

※2025年12月末時点

営業利益率

21.7%

※2025年12月通期

ARR1,000万円+顧客数

48社

※2025年12月末時点

年間防御総攻撃データ数

20億件+

※2025年の年間検知件数より算出

1社あたり月間セキュリティアラート数

600万件+

※2025年12月CloudFastener顧客より算出

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

数字で見るCSCグループ②

平均年齢※1

36.9歳

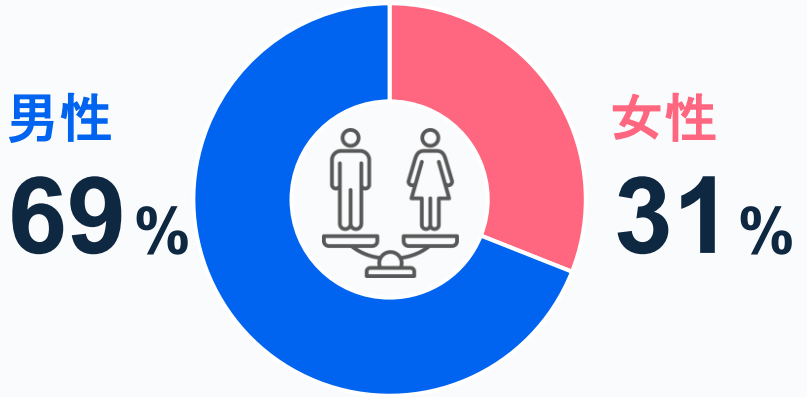


従業員数※1

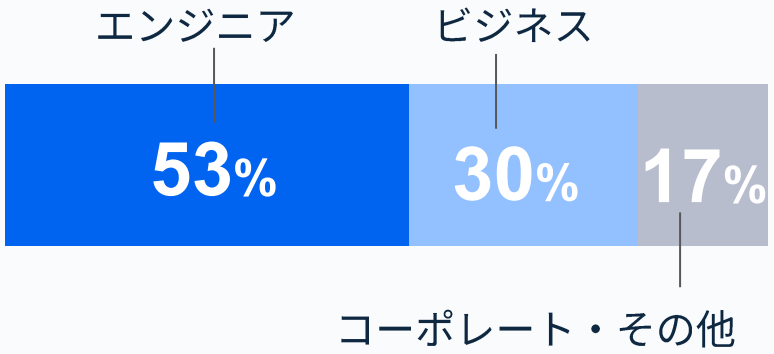
206名



男女比※1

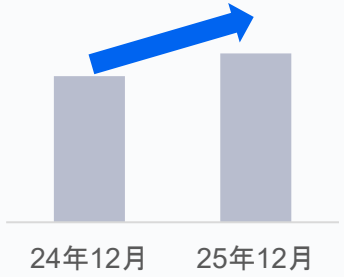


職種割合※1

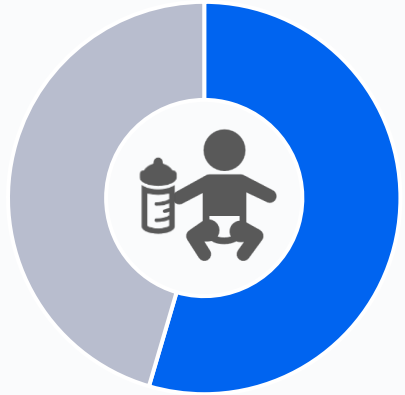


昇給率※2

7.7%



男性育児休暇取得率※3



54.5%

※1　2026年9月末時点　　※2　2025年1月在籍従業員を対象に集計
※3　2024年~2025年の育休等を取得した男性従業員の数/配偶者が出産した男性従業員の数

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

Webセキュリティにおける当社プロダクトの役割

- 当社は企業のWebサイトやWebサービスをハッカーの攻撃から「守る手段」、脆弱性を「直す手段」
- およびクラウド環境のセキュリティを包括的に「管理・運用する手段」を提供

ハッカーからの
サイバー攻撃を防ぐ

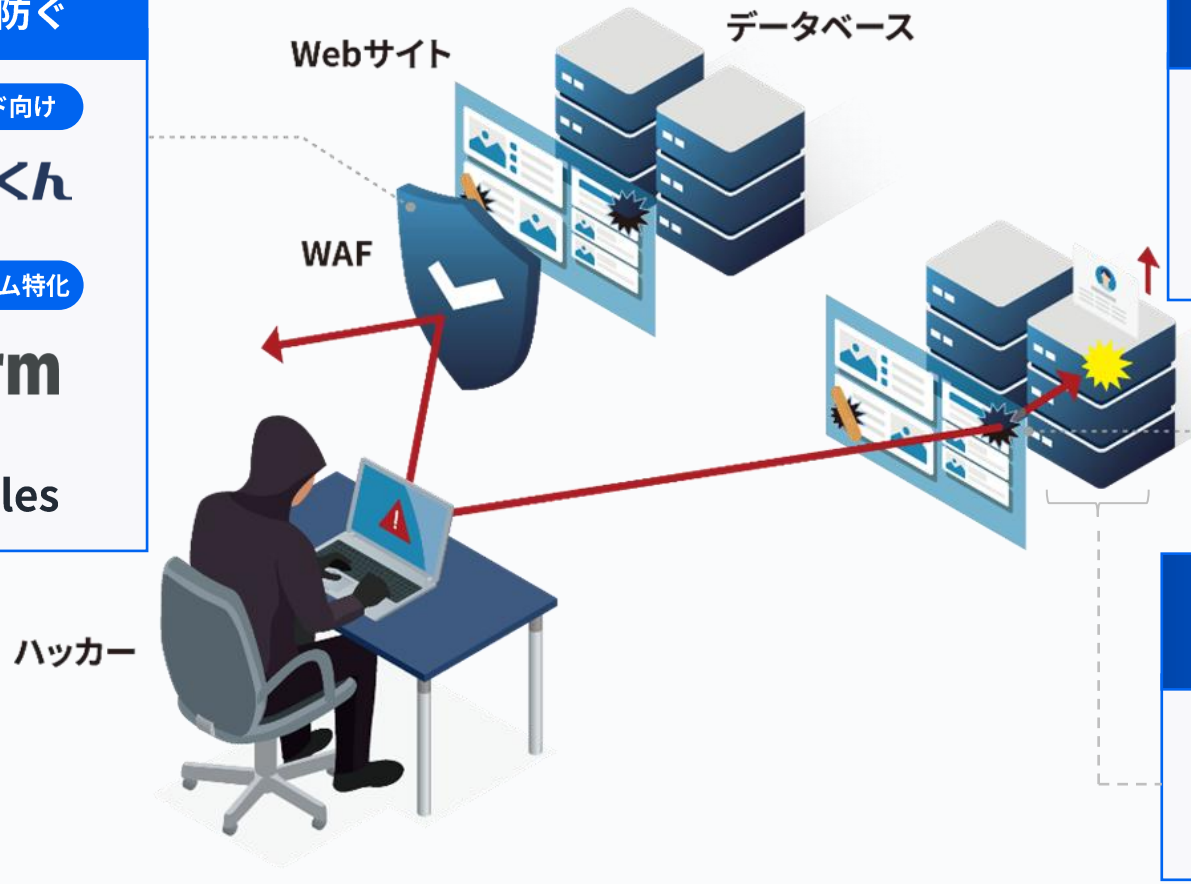
オンプレミス／クラウド向け

攻撃遮断くん

クラウドプラットフォーム特化

Waf Charm

AWS WAF
Managed Rules



ハッカーから狙われる
脆弱性情報の収集・管理

900以上のソフトウェアが対象

SIDfm

クラウド環境の
セキュリティを包括的に
管理・運用

3大クラウドに対応

CloudFastener

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

当社プロダクトラインナップ



WAF自動運用サービス

Waf Charm

パブリッククラウドのWAF自動運用サービス

AWS WAF Managed Rules

AWS WAF専用のルールセット

マネージドセキュリティ

CloudFastener

3大クラウドプラットフォームのフルマネージドセキュリティサービス

クラウド型WAF

攻撃遮断くん

Webサイト・サーバへのサイバー攻撃を可視化・遮断するサービス

脆弱性管理・診断

SIDfm

OSやアプリケーションの脆弱性情報を収集し提供するサービス

脆弱性診断

Webアプリケーション等に関する脆弱性診断サービス

クラウド構築・開発

GENERATIVE TECHNOLOGY

セキュアなシステム開発環境の構築サービス

個人情報同意管理ツール

webtru ウェブトゥルー

世界各国の規制に対応した個人情報同意管理ツール

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

当社の特徴①　領域特化・クラウド型の国産プロダクト

- Webセキュリティ領域に特化し、国産かつ手厚いサポートにこだわったことで、早期に顧客を獲得
- 蓄積されたデータや顧客の声を開発に活かし、高い防御性能と信頼・安心を実現するプロダクトを複数提供

データ

先行優位・クラウドの利点を活かしてデータを早期蓄積

体制

開発・運用・サポートすべてを国内自社で行う体制を構築。サポートは24時間365日、日本語対応

認知度

国産でシェアNo.1、上場企業のプロダクトとして高い認知度をキープ

高い防御性能



大量のデータに基づき開発した
攻撃検知技術をプロダクトに搭載

顧客ニーズドリブンのプロダクト開発



顧客との継続的な関係と自社での一気通貫体制から得た深い知見をプロダクト開発に反映

マルチプロダクトを活かした提案のバリエーション



顧客ごとのサーバ環境に最適なプロダクトの提供・組み合わせが可能

実績（一例）

攻撃遮断くん

国内売上高シェア1位※1

WafCharm

国内売上高シェア1位※2

AWS WAF Managed Rules

ユーザー数

100カ国以上4,035※3

※1 デロイト トーマツ ミック経済研究所「外部脅威対策ソリューション市場の現状と将来展望2025年度」
※2 ITR「ITR Market View：ゲートウェイ・セキュリティ対策型SOCサービス市場2025」
※3 2025年12月末時点

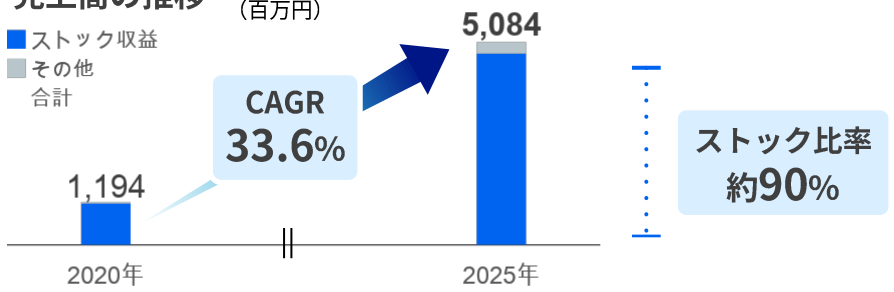
©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

当社の特徴②　安定的な収益構造

- ストック収益を中心に高い成長を継続し、マルチプロダクトで安定的に収益を積み重ねる
- 各プロダクトで低い解約率を維持しながら、着実に増益を継続

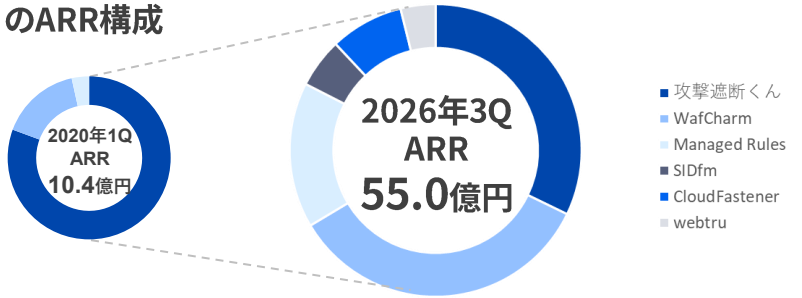
ストック収益を中心に高成長を継続

売上高の推移　（百万円）



マルチプロダクトで上場時から大きく成長

各プロダクトのARR構成



売上成長　マルチプロダクト　顧客基盤　高収益性

豊富な顧客基盤と低い解約率

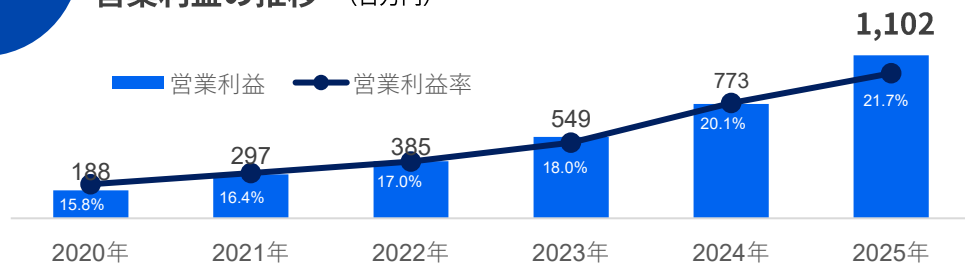
ユーザー数及びプロダクト別解約率（2026年9月末時点）

攻撃遮断くん
利用企業数：1,372
解約率※1：0.98%

WafCharm
ユーザー数：1,296
解約率※2：0.97%

積極的な投資を行いながらも増益を継続

営業利益の推移　（百万円）

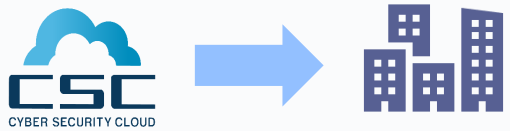


※1 MRRの月次解約率（当月に減少したMRR ÷ 前月末時点のMRR）の直近12ヶ月平均をもとに作成
※2 ユーザー数の月次解約率（当月に課金終了したユーザー数 ÷ 前月末時点の課金ユーザー数）の直近12か月平均をもとに作成

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

当社の特徴③　国内外での販売チャネルの多様性

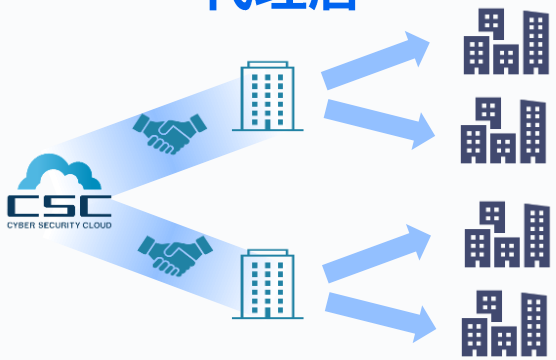
直販



お客様の要望を聞きながら丁寧にフォロー

- 経験豊富なセールスとマーケティング人材が多数在籍
- 約3,000社との取引実績

代理店



当社ではリーチできないお客様に対してアプローチ可能

- 200社以上のパートナーネットワーク
- AWSプレミアティアサービスパートナーとの強固なリレーション

マーケットプレイス



世界中のユーザーがいつでも購入可能

- 世界100ヵ国以上での利用実績
- 「Marketplace Partner of the Year - APJ」の獲得実績

複数の販売チャネルを持つことで、より多くのお客様に当社プロダクトを届けることができる

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

導入企業例

- 業種・規模・業態を問わずセキュリティニーズが拡大し、様々な企業で導入が進む

金融

SBI証券

SOMPOリスクマネジメント

浜銀総合研究所

官公庁・独立行政法人

デジタル庁

総務省　農林水産省

宇宙航空研究開発機構(JAXA)

IPA(情報処理推進機構)

IT・サービス

freee

JTB
感動のそばに、いつも。

株式会社ベネッセコーポレーション

TECHORUS

ENECHANGE

ACworks

iRidge

メディア・EC他

ほぼ日

istyle

集英社

小売・飲食・食品

AIN GROUP

TULLY'S COFFEE

House

交通 ・建設

ANA

子どもたちに誇れるしごとを。
SHIMIZU CORPORATION
清水建設

メーカー

Pioneer

キョクヨー

日本新薬

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

当社サービスの拡販を支える強力な販売パートナー

- 多くの販売パートナーを通じて、幅広いユーザーへプロダクト提供を行う
- 今後も販売網を拡大すべく、販売パートナーの獲得を狙う

SIer
ディストリビューター

FUJITSU 富士通Japan株式会社
DIS ダイワボウ情報システム株式会社
NETWORLD
電通総研 SECURE SOLUTIONS
鈴与シンワート株式会社
CEC Computer Engineering & Consulting

ITインフラ事業者・MSP※1

IIJ Internet Initiative Japan
さくらのクラウド
JIGSAW
GMOクラウド
GSX GLOBAL SECURITY EXPERTS
5G Innovations
cybertrust
Future Spirits

AWSプレミアティアサービスパートナー
（15社中13社が当社のパートナー）※2

NTT DATA
FUJISOFT
CTC Challenging Tomorrow's Changes
SCSK
FUJITSU
HITACHI 日立システムズ
iret
classmethod
TOKAI GROUP TOKAIコミュニケーションズ
Serverworks
TECHORUS
TIS TIS INTEC Group

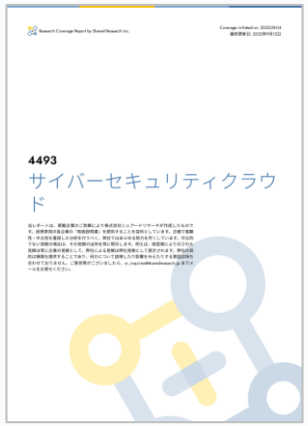
他 1社

※1 Managed Service Providerの略で、ITシステムの保守・運用・監視等を行うサービスベンダーのこと
※2 AWSワークロードの設計や構築などにおいて高い専門知識を有し、多数のお客様の事業拡大に著しく貢献しているAWSの最上位パートナー

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

当社のIRコンテンツ

シェアードリサーチ※



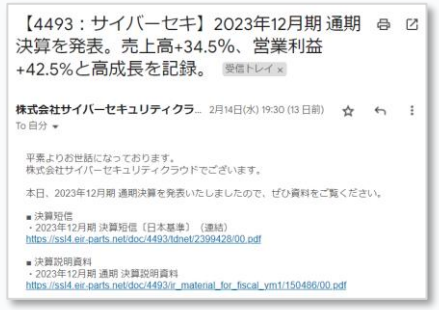
レポートを読む

IR note



登録はこちら

メールマガジン



登録はこちら

CSC NEWS（YouTube）



登録はこちら

※株式会社シェアードリサーチは、世界の投資家に企業の本質を伝えるリサーチ会社です。
投資判断に必要な情報を「企業の立場」ではなく、「投資家の立場」に立ったレポートを作成しており、作成されたレポートは機関投資家のみでなく個人投資家にも愛用されております。

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026

免責事項

本資料の作成に当たり、当社は現時点で入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。また、本資料発表以降、新しい情報や将来の出来事等があった場合において、当社は本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。

CYBER SECURITY CLOUD

世界中の人々が安心安全に使える
サイバー空間を創造する

©Cyber Security Cloud , Inc. 2026